

令和4年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、研修医の指導、自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐にわたっている。特に医師の働き方改革については、厚生労働省、日本医師会等の様々なセクションで議論が交わされ、「時間外労働の上限規制」「応召義務」「自己研鑽」「宿日直許可」「タスクシフティング・タスクシェアリング」「救急医療」などの課題について多角的に検討が重ねられてきた。とりわけ、医師の健康への配慮と地域医療提供体制の確保という両立が難しい課題を解決することが重要となっている。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取り組んでおり、今後も継続的に協議し、府医と連携しながら、必要に応じて行政へ提言していく。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来 38 年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、令和5年1月1日現在、1,993名で昨年より31名の減となったものの、京都府医師会総会員中、45.6%を勤務医部会員が占めている。しかしながら、依然として全国平均の50.6%(令和4年11月1日現在での日医集計による)と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去8年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会会員数	京都府医師会総会員数	割合
令和5年	1,993名	4,372名	45.6%
令和4年	2,024名	4,400名	46.0%
令和3年	2,013名	4,399名	45.7%
令和2年	1,962名	4,369名	44.9%
令和元年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%
平成29年	1,795名	4,243名	42.3%
平成28年	1,713名	4,148名	41.3%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

松井勤務医部会会長のもと、幹事長に若園吉裕氏、副幹事長には出島健司氏、福田亙氏、木戸岡実氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。

なお、任期は府医役員に準じ2023年6月定時代議員会までとなる。

役職	氏名	医療機関
部会長	松井 道宣	同仁会クリニック
幹事長	若園 吉裕	京都桂病院
副幹事長	出島 健司	京都第二赤十字病院
〃	福田 瓦	京都第一赤十字病院
〃	木戸岡 実	六地藏総合病院
幹事	山崎 正貴	京都鞍馬口医療センター
〃	塩津 弥生	京都第二赤十字病院
〃	松本 恭明	堀川病院
〃	清水 恒広	京都市立病院
〃	飯沼 昌二	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	大越 香江	日本バプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	植田 知代子	京都桂病院
〃	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	木下 智晴	洛和会音羽病院
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	瀬田 公一	京都医療センター
〃	大野 智之	京都済生会病院
〃	金 修一	宇治武田病院
〃	鹿野 勉	京都岡本記念病院
〃	中田 雅支	京都山城総合医療センター
〃	田中 宏樹	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	高升 正彦	綾部市立病院

//	中村 紳一郎	市立福知山市民病院
//	富士原 正人	京都ルネス病院
//	沖原 宏治	舞鶴共済病院
//	酒井 克之	舞鶴医療センター
//	堅田 和弘	京都府立医科大学附属北部医療センター
//	妹尾 浩	京都大学医学部附属病院
//	浮村 理	京都府立医科大学附属病院

(令和5年3月31日現在)

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

令和4年度も幹事会を1回、正副幹事長会を1回開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。特に医師の働き方改革については、個々の医療機関が抱える問題と地域の救急医療体制の確保の観点から、医師会や行政に求められる役割を整理し、継続的な議論が必要との提言がなされた。

5. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、82名の入会を得ることができた。

6. 第48回京都医学会への演題発表

今年48回目となる京都医学会は9月25日(日)に開催。新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、来場者を制限し、全プログラムをライブで配信した。その後1ヶ月間にわたってアーカイブ配信を行ない、多くの会員が視聴した。

今回の特別演題は『コロナ禍をふまえた地域医療構想』というテーマで産業医科大学公衆衛生学教授の松田晋哉先生にご講演いただいた。

シンポジウムは『コロナ禍で医療提供体制はどう変わったか?』というタイトルで、谷口洋子京都府医師会副会長を総括者として、病院の立場から辰巳哲也先生(京都府病院協会会長)、診療所の立場から田中誠先生(たなか往診クリニック)、ホテル療養の立場から武田貞子先生(京都府医師会理事)にそれぞれお話を伺った。

一般演題は、勤務医から43題(初期研修医10題含む)の応募があり、いずれも日常診療に基づいた興味深い取り組みや貴重な症例報告であった。

7. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。